

「兵庫県立人と自然の博物館」に収蔵されている稲原延夫 コレクションのクワガタムシ科標本

横川忠司・山内健生

〒669-1546 三田市弥生が丘6丁目 兵庫県立大学
自然・環境科学研究所／兵庫県立人と自然の博物館

Nobuo Inahara's Stag Beetle Collection in the Museum of Nature and Human Activities, Hyogo

Tadashi YOKOGAWA and Takeo YAMAUCHI

緒言

クワガタムシ科は東南アジアを中心に世界中に分布し、性的二型や個体変異、あるいは地域変異が大きく、種レベルあるいは個体レベルで体長の幅が大きいなどの特徴をもつ。日本人にとって最も馴染みのあるグループのひとつであり、特にオスの大あごが発達する種は子供から大人まで幅広い年齢層に人気がある。現在では、国内外の産地を問わず、生きた個体が専門店以外のホームセンターでも気軽に購入できるほどになっている。そのため、日本には多くの愛好家があり、個人で博物館以上のコレクションを所有しているコレクターも複数存在する。本報ではその先駆けとなった稲原延夫氏のクワガタムシ科標本について紹介

する。このコレクションは、兵庫県立人と自然の博物館に収蔵されているクワガタムシ科標本の中でも、特に貴重な標本が多数含まれ、学術的、ならびに歴史的価値が高い。稲原延夫氏のコレクションには様々な分類群のコウチュウ目や蝶類も含まれるが、本報では便宜上、クワガタムシ科標本のみを稲原コレクションと呼ぶ。

稲原延夫氏について

稲原延夫（1925年1月17日～1985年1月17日）（図1）は小学2年生の時から亡くなるまで、クワガタムシ科を中心に世界中の昆虫標本を収集し続け、当時、クワガタムシ科では世界一の種数を誇る個人コレクションを築いた。稲原（1982b）によると、特に影響を受けたのは中学生の頃に入手した「大日本锹形虫科の種の研究」（三輪、1931、1932a, b, 1933, 1934）で、これらを一言一句暗記するほど貪り読んだようである。現在、ボロボロになった直筆の写しが残されている（図2）。これを機に、標本や文献の収集のため日本はもとより世界中の学者やコレクターと手紙でやり取りを始め、同時期に大阪の標本商に足しげく通うようになったようである。しかし、1945年の大阪大空襲ですべての標本と文献を失って



図1. 稲原延夫氏（奥田則雄氏提供）。

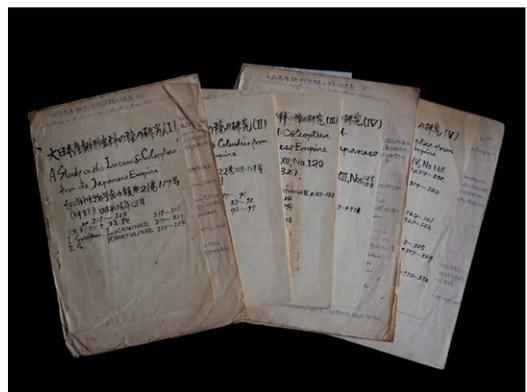


図2. 稲原氏が書き写した三輪勇四郎著『大日本锹形虫科の種の研究』（奥田則雄氏所蔵）。



図3. *Psalidoremus elegans* (現在はリュウキュウノコギリクワガタカラ列島亜種*Prosopocoilus dissimilis elegans*)のホロタイプ。

いる。したがって、現在のコレクションは収集を再開した1953年からのものである。親交のあった海外の研究者やコレクターは、Bernard Benesh (1891-1964, 米国), Paul Nagel (生没年不明, ドイツ), Gilbert John Arrow (1873-1948, イギリス), Robert Didier (1885-1977, フランス), Ernst Lewis (生没年不明, イギリス), E. R. Leach (生没年不明, 米国), P. F. S. Pereire (生没年不明, ブラジル), Wayne W. Kloop (生没年不明, 国籍不明), Melchior de Lisle (1908-1977, フランス), Erich Weinreich (生没年不明, ドイツ), Sebö Endrödi (1903-1984, ハンガリー), Elli Franz (1896-1983, ドイツ)などが挙げられる。そのほか、標本収集のエピソードなどは稲原 (1982b) に詳しく書かれているので、興味のある方はこちらを参照いただきたい。稲原氏の生前にこのコレクションを見た人はほとんどいなかったようだが、現在もアマチュ



図4. タイワンマダラクワガタ*Aesalus imanishii*のホロタイプ(♂, 左)とアロタイプ(♀, 右)。



図6. イナハラハネナシネプトクワガタ*Aegus inaharai*のホロタイプ(♂, 左)とパラタイプ(♀, 右)。



図5. イナハラマルバネクワガタ*Neolucanus inaharai*のホロタイプ (奥田則雄氏提供)。



図7. イナハラツノヒョウタンクワガタ*Nigidius inaharai*のホロタイプ (奥田則雄氏提供)。

ア研究者として活躍されている山口雄志氏と奥田則雄氏は当時稲原氏宅の近所にお住まいであり、小中学生のころからこのコレクションを見せてもらっていたそうである。また、海外の研究者とのやり取りの方法や手紙の書き方も教わったそうである。

稲原氏が新種として記載したのは2種で、*Psalidoremus elegans* Inahara, 1958（現在はリュウキュウノコギリクワガタトカラ列島亜種 *Prosopocoilus dissimilis elegans*）（図3）と台湾マダラクワガタ *Aesalus imanishii* Inahara & Ratti, 1981（図4）である（Inahara, 1958; Inahara & Ratti, 1981）。また、1970年代後半からは自身のコレクションを用いて解説や展示を行っている。1975～76年にかけては柏樹社の『まみず』に「昆虫誌」と題した世界の甲虫の解説を14回にわたって連載し（稲原, 1977）、1978～82年にかけては比叡山自然科学館にてコレクションの展示を行い、その解説を比叡山自然科学館報に執筆した（稲原, 1978, 1979, 1980, 1981, 1982a）。

稲原氏に献名された種は、イナハラホソクワガタ *Leptinopterus inaharai* Lacroix, 1982、イナハラマルバネクワガタ *Neolucanus inaharai* Okuda, 2009（図5）、イナハラハネナシネプトクワガタ *Aegus inaharai* Fujita, 2010（図6）、イナハラツノヒョウタンクワガタ *Nigidius inaharai* Okuda, 2012（図7）の4種である（Lacroix, 1982; 奥田, 2009, 2012; 藤田, 2010）。

没後のコレクションの経緯と保管状況

稲原氏の全標本は、没後、稲原氏のご遺族の強い希望により全標本をまとめて受け入れ可能で、昆虫標本の収集を行っていた株式会社日本生命保険相互会社（大阪市）へ渡り、大阪市旭区生江町の倉庫内に保管されていた。ここでは温湿度管理と防虫対策が行われており、保管状況は良好であった。そして、2001年に日本生命から兵庫県立人と自然の博物館へ、その他の標本（富田寿夫コレクションなど）と共に寄贈された。この時、日本生命から受け入れた標本総数は、甲虫類24,800点以上、蝶類12,400点以上であった。それ以降、当館の収蔵庫で保管されてきた。

コレクションについて

稲原氏の全標本は、受け入れ時の資料によると全部で340箱分あり、クワガタムシを中心に、カブトムシやカミキリムシなどの甲虫類標本および少数の蝶類標本で構成されている。我々は、主に藤田（2010）に従って稲原氏のクワガタムシ科標本をリスト化し、他のコレクションと区別して整

理した。2018年3月現在、クワガタムシ科の標本は約7,100点（ドイツ箱で150箱分）が確認されている。

クワガタムシ科は当時の分類体系で820種以上（稲原, 1982b）が含まれている。当時知られていたのが1,100種余り（現在は約1,300–1,600種）であったため、既知種の約75%を保有していたことになる。比較のために、国内の博物館における、公表されているクワガタムシ科の所蔵種数や点数の例を挙げると、国立科学博物館の和泉泰吉氏（1974年没）のコレクションが719点（黒澤, 1974）、豊橋市自然史科学博物館全体のコレクションが1998年当時でタイプ38点、351種、3,794点（豊橋市自然史博物館, 1998）である。物資の流通や海外とのやり取り、情報が少なかった時代に稲原氏がこれだけの種数を入手していたことに驚くばかりである。藤田（2010）の分類に従うと66属573種680亜種（同定できたもののみ）に及び、他にも未記載種と考えられる標本が含まれ、当時ではおそらく世界一の個人コレクションである。しかも、当時としては同定が正確なことも特筆すべきことである。また、種数だけでなく、世界中の小型種から大型種、地域変異、個体変異、奇形個体までカバーしている。同一種の標本が採集された国ごとに集められ、その国旗あるいは周辺の地図とともに配列されていたり、同定に使用された文献コピーとともにドイツ箱に収められている（図8）点もユニークで、標本への強い執念と愛情が感じられる。稲原氏はこのコレクションで世界のクワガタムシの図鑑と博物館を作る予定だったようで、ある種の個体変異が1箱で把握できるように配列されていたり（図9）、奇形個体だけで3箱分もの分量がある。奇形個体の内訳は、大あご（図10）、脚や触角、その他（雌雄同体など）がそれぞれ1箱ずつである。多くの標本には「INAHARA'S COLLECTION ACCESSION No.○○」と印字されたコレクションラベル（○○は手書きで5桁の数字が書かれている）が付けられており、その裏面にデータが書かれている。

タイプシリーズが多く含まれるのも稲原コレクションの重要な特徴のひとつである（50点）。特にパラタイプが多く、前述のように海外の研究者との交換によって入手されたものである。ホロタイプは4点で、稲原氏本人が記載したリュウキュウノコギリクワガタトカラ列島亜種と台湾マダラクワガタの2種に加え、没後に記載されたイナハラハネナシネプトクワガタ *Aegus inaharai* Fujita, 2010 とインヴェニレウスオオズクワガタ

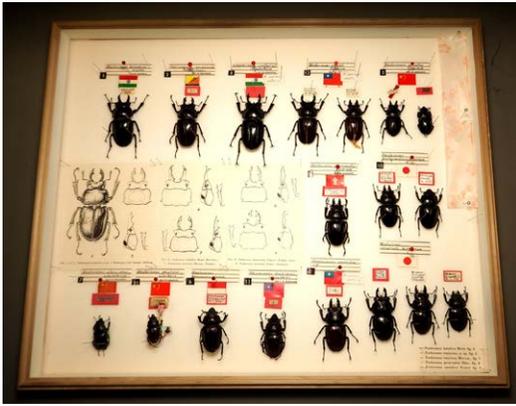


図8. マルバネクワガタ属 *Neolucanus* の1箱. 採集された国の国旗と同定に使用された文献コピーとともに収められている標本. ブータン産のサンダースマルバネクワガタ *N. saundersii* も含まれている.



図10. 大あご奇形の標本. これらにも国旗が付されている.



図9. 大きな個体から順に番号が振られ、個体変異を把握できるように配列されたシェンクリングオオクワガタ *Dorcus schenklingi*.



図11. 稲原延夫コレクションの常設展示. 簡単な解説とともに標本、資料を展示している.

Macrocrates invenireus Fujii, 2012 があり (藤田, 2010; Fujii, 2012), これらは他の標本とは別にタイプ標本保管金庫にて管理されている. ちなみにリュウキュウノゴリクワガタトカラ列島亜種の原記載時に使用された口之島産 5♂3♀は、ホロタイプ 1♂以外の 4♂3♀ (いずれもパラタイプ指定はされていない) のうち見つかったのは 2♂2♀であった.

稲原コレクションには入手困難な種や歴史的に貴重な標本も多い. 例えば, 古い標本であるにもかかわらず『世界のクワガタムシ大図鑑』(藤田, 2010) に使用された標本は 17 種 22 点に上り, 国内あるいは世界でもおそらくここにしかない種の標本が含まれている. また, 終戦直前の 1945 年 8 月 12 日に沖縄で採集されたリュウキュウノゴリクワガタ沖縄本島亜種 *Prosopocoilus dissimilis okinawanus* (Nomura, 1962) の標本も存在する. さらに, 現在では標本の持ち出しが厳しく規制されているブータン産標

本も含まれている (サンダースマルバネクワガタ *Neolucanus saundersii* Parry, 1864 (図8), デレリクトゥスコクワガタ *Dorcus derelictus* Parry, 1862, ティティウスヒラタクワガタ *Dorcus tityus* Hope, 1842 など).

稲原コレクションからは稲原氏が当時の分類体系に疑問を持っていたことも見て取れる. そのためか, 種名ラベルには「DET. N. INAHARA」と記載されているものとそうでないものがある. この文字が記載されていないものも多いことから, これらは稲原氏が疑問を持ちながら, あるいは同定結果に自信が持てずに種名ラベルを作成したものかもしれない. 実際に稲原 (1982b) で「個体変化が多いために今までの分類が完全とは思えず分類

学的に再検討の余地があると思った」,あるいは「標本が増えれば増える程,個体を『種』として扱った今までの分類学に疑問を持つに至った」と述べられている。例えば,当時は亜種や個体変異まで種として扱われていたブツダノコギリクワガタ *Prosopocoilus buddha* Hope, 1842 の多くの産地,多数の標本が集められており,個体変異から種や亜種に至るまで検討されていたであろうことを垣間見ることができる。

他にも,自慢の逸品と思われる標本(貴重な産地や特大・特小個体)のラベルの下に赤い紙が付けられている点もユニークである(図8,9)。特に大型種の特大個体への執着が強く,多数の標本が収集されている。藤田(1999)でも紹介されている通り,現在の主流の展足(整形)方法に比べて大あごや脚が大きく開かれている点も特徴的である(図8,9)。

管理と活用

稲原コレクションと明示した展示を行うことが寄贈の条件であったことから,2018年2月から稲原コレクションのみで1コーナーの常設展示を行い,文献とともにドイツ箱に入れられた標本が展示されている(図11)。標本の劣化を防ぐために,UVカットガラスを用い,月に1回程度,展示標本をドイツ箱ごと入れ替えている。

収蔵庫では,「稲原延夫コレクション」として他のクワガタムシ科標本とは区別してまとめて保管されている。そして稲原氏の分類体系に対する考え方がわかるように,ドイツ箱の中の標本は移動させずに取替えて受け入れ時の状態を維持している(図8)。藤田(2010)のために貸し出された標本は,元の箱に稲原氏の種名ラベルを残したまま標本だけを別のドイツ箱1箱にまとめている。稲原コレクション全種のリスト化のため,藤田(2010)の分類に従い再同定し,種名に変更があったものについては同定ラベルを付けた。そのため,現在は,コレクションに含まれる種やタイプ標本の有無を確認することができる。リストは非公開だが,研究上必要な標本の所在を確認したい場合は山内までお問い合わせいただきたい。また,整理・リスト化の過程で発見された特筆すべき標本については,別の機会に発表する予定である。

謝辞

奥田則雄氏には稲原氏の人柄や当時の状況をお聞きし,様々な資料をお借りした。また,原稿にたいへん有意義なコメントをいただいた。山口雄

志氏にも稲原氏の人柄や当時の状況をお聞きした。池田孝行氏と中原真一氏には文献の入手でお世話になった。稲原延夫氏の三男である奥田啓知氏には稲原氏の生没年月日,人柄,没後のコレクションの経緯について教えて頂いた。この場をお借りして心より御礼申し上げる。

引用文献

- Fujii, T., 2012. Two new species of the genus *Macrocrates* (Coleoptera, Lucanidae) from South Brazil. *Elytra*, New Series, 2: 243–255.
- 藤田 宏, 1999. 入門講座1 クワガタムシの標本の作り方. 月刊むし増刊3号 オオクワガタ! クワガタムシ飼育の最新情報, 1: 20–50.
- 藤田 宏, 2010. 世界のクワガタムシ大図鑑. 月刊むし・昆虫大図鑑シリーズ. むし社, 東京, 472 pp. 248 pl.
- Inahara, N., 1958. Notes on the stag beetles belonging to the genus *Psalidoremus* Motschulsky (Col., Lucanidae), with the description of one new species. *The Entomology Monthly Magazine*, 94: 12–14, 1 pl.
- 稲原延夫, 1977. 世界の有名カブトムシとテナガゴガネについて. 自刊. 60 pp.
- 稲原延夫, 1978. 世界のカブトムシ. 比叡山自然科学館報, 1: 1–12.
- 稲原延夫, 1979. 世界のクワガタムシ. 比叡山自然科学館報, 2: 1–12.
- 稲原延夫, 1980. 世界のオオツノコガネ. 比叡山自然科学館報, 3: 1–12.
- 稲原延夫, 1981. 世界の大型甲虫. 比叡山自然科学館報, 4: 1–12.
- 稲原延夫, 1982a. 世界のカミキリムシ. 比叡山自然科学館報, 5: 1–12.
- 稲原延夫, 1982b. クワガタとともに40年. 昆虫と自然, 17 (10): 18–23. pl.
- Inahara, N. and Ratti, P., 1981. Description of a new species of Lucanidae from Formosa (Taiwan): *Aesalus imanishii* (Coleoptera). *Bulletin & Annales de la Société Royale Belge d'Entomologie*, 117: 189–194.
- 黒澤良彦, 1974. 訃報(和泉泰吉). 甲虫ニュース, (21–22): 12.
- Lacroix, J. P., 1982. Notes sur quelques Coleoptera Lucanidae nouveaux ou peu connus. *Miscellanea Entomologica*, 49: 13–30.
- 三輪勇四郎, 1931. 大日本鋸形虫科の種の研究1. 台湾博物学会会報, 21: 315–325.
- 三輪勇四郎, 1932a. 大日本鋸形虫科の種の研究2. 台湾博物学会会報, 22: 87–97.
- 三輪勇四郎, 1932b. 大日本鋸形虫科の種の研究3. 台湾博物学会会報, 22: 123–132.
- 三輪勇四郎, 1933. 大日本鋸形虫科の種の研究4. 台湾博物学会会報, 23: 353–371.
- 三輪勇四郎, 1934. 大日本鋸形虫科の種の研究5. 台湾博物学会会報, 24: 317–332.
- 奥田則雄, 2009. 東南アジア産マルバネクワガタに関する知見. 月刊むし, (462): 41–46.
- 奥田則雄, 2012. 中部ベトナム・コンツム省産ツノヒョウタンクワガタ属の1新種. *KOGANE*, 13: 143–146.
- 豊橋市自然史博物館, 1998. 昆虫類I. 豊橋市自然史博物館所蔵クワガタムシ科標本目録. 豊橋市自然史博物館資料集, 6. 豊橋市自然史博物館, 豊橋, 43 pp. + 2 pl.

(2018年5月13日受領, 2018年6月14日受理)